

「第3回アジア土木技術国際会議」報告

専務理事 砂川 孝志
研究第二部 主任研究員 星野 輝雄
研究第一部 主任研究員 佐藤 研三

1. はじめに

2004年8月に韓国ソウル市内にて行われた第3回アジア土木技術国際会議に出席し、併せて清溪川等の現場視察を行ったのでこれについて報告致します。

2. 第3回アジア土木技術国際会議

アジア土木技術国際協力会議(CECAR: Civil Engineering Conference in Asian Region)は、米国、オーストラリアを含むアジア域内7カ国の土木関連学協会からなるアジア土木学協会連合協議会(ACECC)の主催によるものであり、アジア地域における調和した社会資本のあり方や今後の土木技術の研究開発の必要性等、諸問題に関する情報交換を促進し、多国間が連携し解決策を見いだすための議論の場を持つことを目的としたものです。その中で日本の土木技術が果たす役割を大きく期待されていると共に、日本の土木技術や建設産業の海外戦略を考える上でも極めて重要な会議となっています。1998年のマニラでの第1回会議、2001年の東京での第2回会議に引き続いて、第3回アジア土木技術国際会議が2004年8月16～18日に韓国ソウルで開催され、「未来に向けて躍動するアジア」を基軸テーマにアジアのインフラ整備や環境問題などの分野で議論が行われました。

会議の主なプログラムとして、韓国前環境大臣 Dr. Myungja KIMより「北東アジアにおける環境問題と持続可能な発展」と題した基調講演の後、高橋裕東京大学名誉教授による「土木絵本を用いた土木の実践的教育が示唆するもの」を含めた5つの特別講演が行われ、その後10の技術分野に分かれてパラレルセッションが行われました。これらの会議に加えて、二つの特別セッション(メコン川流域の開発プロジェクト、建設産業界の新しい潮流)、学生セッション、ポスター展示による発表等が行われました。

会議にはアジア域内の産官学の主要メンバーを中心に約1000名が参加し、活発な議論が展開されました。



写真-1 会議の様子

3. 清溪川現場視察

ソウル市内の中心部を流れる清溪川は、かつては首都の排水機能を果たすと共に、洗濯場や遊び場など市民と密接な関係を持つ河川でした。しかし都市化の進展により河川の汚染が深刻な状況となり、沿川は伝染病や犯罪の場になっていました。そのため、1950年代より清溪川の覆蓋工事が行われ、上下各4車線の一般道路とさらにその上空に上下各2車線の自動車専用道路が高架で築造されました。

道路施設について1990年代に安全診断を行ったところ、その安全性に問題があることが判明し、交通規制を実施すると共に補修工事を実施しており、今後も多くの工事費が見込まれている状況でした。

これを契機に、都市内交通の再編を行うと共に、周辺の環境向上を目指して道路を撤去し、清溪川を復元する事業が実施されているのでこれを視察しました。

清溪川の復元工事は、復元を公約した市長が2002年7月に就任後、市長の強いリーダーシップ等により、わずか1年後の2003年7月より工事を着手しました。2004年8月現在の進捗率は約70%で、すでに高架道路の撤去は終了し、護岸の整備や橋の建設が進められていました。完成は2005年9月の予定です。工事費は日本円にして約360億円で、ソウル市が負担しています。



写真-2 事業着手前の状況



写真-3 整備の進む清溪川復元工事